

作文の部 優良者賞

見えない壁をこえて

東久留米市立東中学校

三年 浦田 にご

先日、駅で白杖を持った人とすれちがった
ときのことだが、今でも心に残っています。
その日は友達と出かけた帰り道で、私は駅
の改札を出て家に向かって歩いていました。
すると、前を歩いて一人の男性が、白い
杖を手に持って、ゆっくりと歩いているのが
目に入りました。白杖は、目の不自由な人が
使う杖で、道の段差や障害物を確認しながら
歩くためのものです。学校の授業でそのこと
を習っていた私は、
「この人は視覚障害があるんだ」
とすぐに気づきました。よく見ると、その男
性はスマートフォンから流れる音声を聞きな
がら、ときどき立ち止まっては、まわりの音
を確かめているようでした。信号の前では、
不安そうに顔を上げて、まわりの様子を感じ

取ろうとしているようでした。
「声をかけた方がいいかな？」
そう思っ、私はその人の方へ一歩踏み出し
ました。でもすぐに、
「もし困ってなかったら？」
「急に話しかけたらびっくりさせちゃうかも
」
「変に思われたらどうしよう」
と、いろんな考えが頭の中に浮かんできて、
結局足が止まってしまいました。そしてその
まま、何も言わずに通りすぎてしまいました。
その人がまだ交差点の前に立っているのを背
中で感じながら、
「今のままで本当に良かったのか？」
という気持ちだが、心の中でどんどん大きくな
っていきました。家に帰ってからも、その人
のことが頭から離れませんでした。
「もしかしたら、本当に困っていたのかもし
れない」
「たった一言声をかけるだけで、助けになつ
たかもしれない」

そんな後悔のような思いが。自分の中に残っ
ていました。次の日、私は学校でそのことを
友達に話してみました。気の合う友達だった
ので、正直な気持ちをもそのまま話しました。
「声をかけた方がよかったのかもしれないけ
ど、なんだかこわくて何もできなかった。」
と言うと、その友達はこう言ってくれました。
「私だったら、たぶん同じだったと思う。で
も、そうやって考えてるってことが大事なん
だと思うよ。」
その一言で、私は少し救われた気がしました。
すると友達が、こんなことも言ってくれまし
た。
「何かお手伝いしましょうか？」って聞け
ばいいだけだよ。もし困ってなければ「大丈
夫です」って答えてくれるし、助けが必要だ
ったら“お願いします”って言ってくれると
思う。」
その言葉に、私はハツとしました。私は。
「声をかけるのはまちがってるかも」

「気まずいかも」
という、自分の気持ちばかりを気にして、相
手の立場で考えることを忘れていたのだと気
づきました。大切なのは、
「どう接したら相手が安心できるか」
を考えること。そして、相手を傷つけないよ
うに、思いやりのある言葉で話しかけること
だったのです。学校の人権の授業で、
「人権とは、誰もが安心して暮らせるように
すること」
と習いました。あ那时的自分の行動は、そ
の安心をつくるチャンスから逃げてしまった
のかもしれない。でも、その経験があった
からこそ、私はこれからどう行動すべきかを
考えるようになりました。今の私は、一つの
ルールを心に決めていきます。それは、
「迷ったら、何かお手伝いできることはあ
りますか？」と声をかける」
ということでした。たった一言でも、相手の不
安をやわらげることができるかもしれない

もし必要なければ断られるだけ。それでいい
のです。大事なのは、助けようとする気持ち
と、それを伝える勇氣です。障害のある人に
限らず、私たちはみんな、ふとしたときに助
けを必要としています。だからこそ、「見て
見ぬふり」ではなく、「そっと手を差しのべ
る」ことを、これからは大切にしていきたい
と思います。

あの日は声をかけられなかったけれど、そ
の出来事が私の考え方を変えてくれました。
これからは、自分から一步をふみ出して、人
と人との「見えない壁」をこえていける人で
ありたいと思います。